

30年度新潟市発達支援コーディネーター養成研修

子どもの発達支援に活かす 連携と保護者の理解

～人間関係を豊かにする連携を中心にするために～

新潟大学 教育学部
有川 宏幸

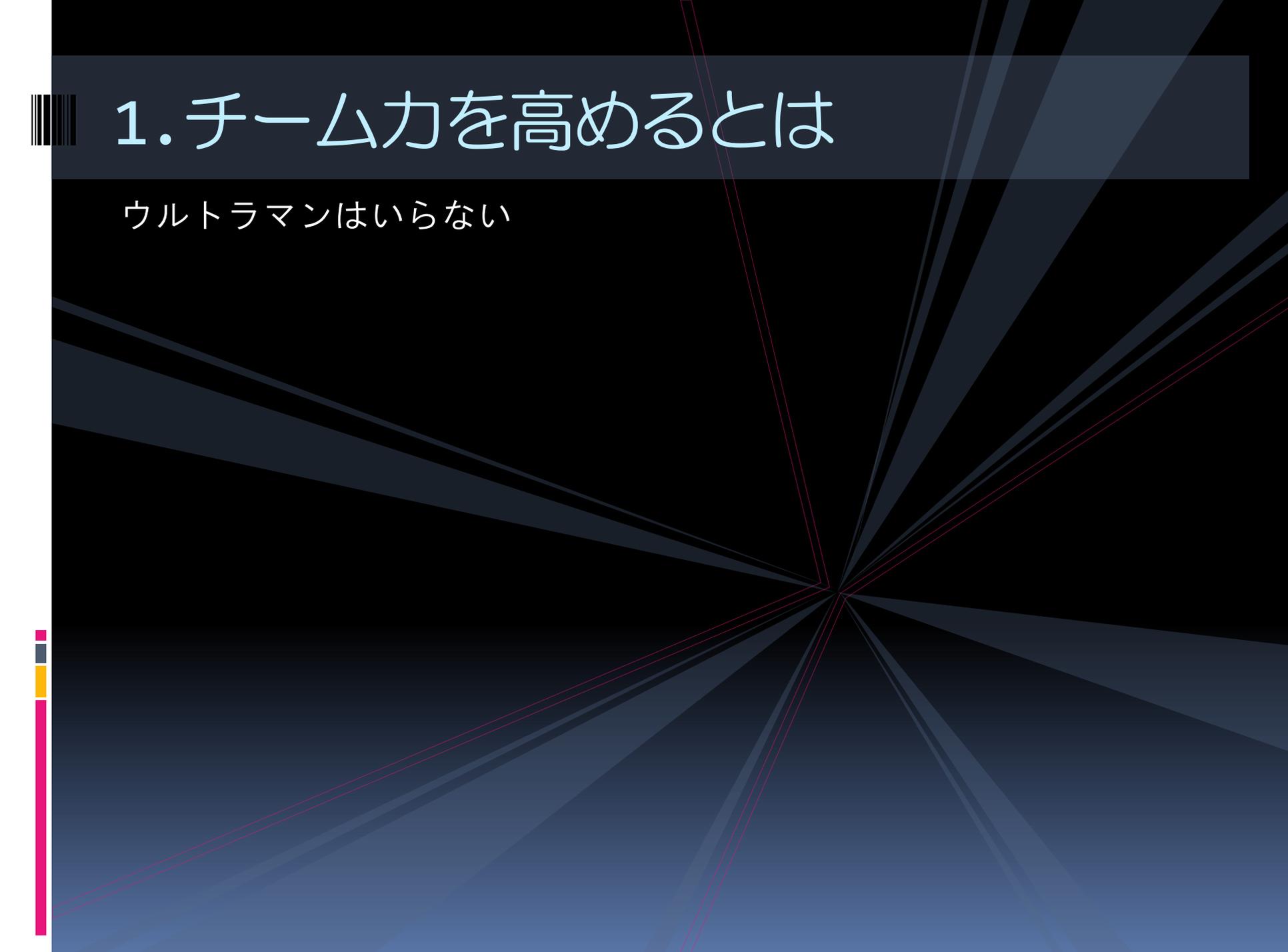
0.はじめに

- 本講義では「保護者の理解と支援」と、それを実現するための関係機関の協働について考えます。
- 関係機関と上手に協働する方法について考えます。
- 保護者と上手にやっていくための方略について考えます。
- 保護者との関係作りの中で、やってはいけないことについて確認します。



1. チーム力を高めるとは

ウルトラマンはいらない



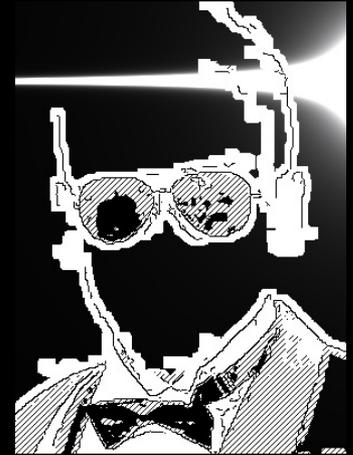
チーム力は向上しています・・・

- あなたはサッカーチームの監督をしています。少しでも強いチームを作るために、毎日悪戦苦闘しています。
- そこで、○○で大活躍している、ホンダさんにとて時々コーチにきてもらうようにしました。とても不思議な事ですが、ホンダさんに見てもらったと、子どもたちはメキメキと力をつけていきました。特に、技術力が劣っている子ほど、その変化は目を見張るものがありました。
- そこで、ホンダさんに今までよりも多く、チームに来てもらうことにしました。チームは連戦連勝。
- ホンダさんの評判はうなぎ上り。今では、他のサッカーチームからも引く手数多です。

チーム力のこれからを考える

Discussion!

ホンダさんは その後



- このチームの状態を、「現在のチーム」を「肯定的側面」「否定的側面」から評価せよ。
- またこの先、このチームはどうなっていくと思いますか？

ウルトラマンは・・・



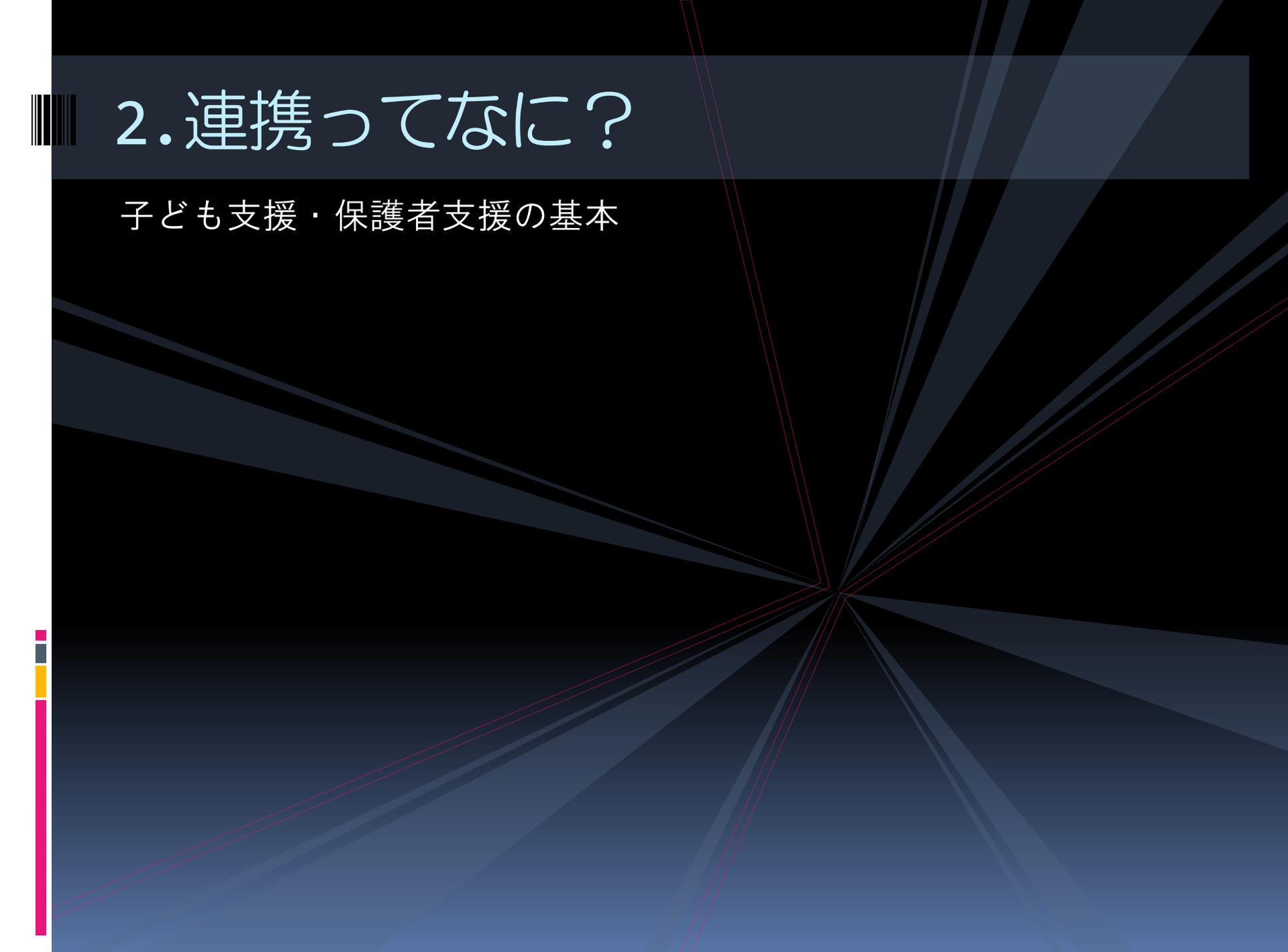
- いない。
- ウルトラマンは、怪獣を倒す事はできるが、科学特捜隊を強くすることはできない。
- チーム力を向上させないと、いずれ、チームは滅びます。科学特捜隊が、その後、どうなったのか、実は誰も知らない・・・。

それでは、これからどうしますか？
具体的に戦略をたてましょう。



2.連携ってなに？

子ども支援・保護者支援の基本



よく聞くはなし・・・

- 「連携会議を設置し、関係機関の連携のもと支援をおこなっており・・・」と、会議を設置することで「連携」を実行しているとする大きな勘違いをしてしまう。そんなところにかぎって・・・



事務局「それでは、とりあえず関連機関は状態を見守るということで・・・え～それでは、そろそろ時間が来ましたので、次回はいつにしますか・・・」

まったく具体性に欠けており、これでは会議のための会議です・・・これを連携と言ってははいけません!!

連携って一体「何」なの・・・

- 演習

実際に「連携」とはどのような活動をさす用語なのか考えてみよう！！

私、一度会ってみたいのですが？

- これから私が会いたい人のヒントを皆さんに、一つだけお伝えします。
- 5つのヒントになりますが . . .

私が会いたい人は、誰だと思えますか？



ヒント1

- その人は、女優です。
- 



ヒント2

- ベストセラー作家です。
- 



ヒント3

- ステキな髪型です。
- 

ヒント4

- 音楽番組の司会をしていました。



ヒント5

- パンダが大好きです。
- 



ヒント6

- トーク番組で有名です。
- 

5つのヒントが集まると

- その人は、女優です。
- ベストセラー作家です。
- ステキな髪型です。
- 音楽番組の司会をしていました。
- パンダが大好きです。
- トーク番組で有名です。

窓際のトットちゃん



今日のお客様は

黒柳 徹子さん

情報量と信頼性・妥当性

- 支援ニーズはもともとは見えないものです。
- 情報量が多ければ、情報の信頼性は高まり、支援ニーズの妥当性は高まります。
- 最悪なのは、少ない情報量で、好き勝手に支援ニーズを決めてかかることです。

情報については可能な限り多くの量を集めることが何よりも必要なことです。支援目標の設定には支援ニーズの把握は不可欠です。

連携ってなに？

(ここまでをチェック)

ここでは「連携」を

「支援を必要とする者に対して、複数の関係機関が情報を共有し、その問題の解決をはかるための基本戦略を立て、その戦略を実行すること」と定義しましょう！！

あなたは、連携により具体的な解決へと向かおうとしていますか？



3. 支援目標と連携

「推測・憶測」に基づく情報の危うさ



あなたならどうする・・・

事例：

Aくんは5歳児。最近、午前中はなにやらボーっとしていて先生の話聞いていないことが目立ってきた。

もともと、積極的に発言する子ではなかったが、先日の発表会では質問すると何を問いかけても、答えようとはせず、うつむいて動かなくなってしまった。

一ヶ月まえに肺炎で入院してからというもの、「風邪」をひいて休むということが多い。母も子育ての意欲が乏しく、欠席の連絡をしないことも多い。

忘れものも多く、何度か母親に気をつけてもらうように話すも、あまり変化はない。

ものの本などによると・・・

特性の把握

特性やニーズに応じた支援方法の検討

P:支援計画の立案・作成/目標設定

D:実際の支援

C:支援結果の測定

A:支援課題の明確化・改善点の整理

この一連のサイクルを“PDCA サイクル(plan-do-check-action cycle)”と言ったりもします

あなたならどうする・・・

事例：
事 ぽーっとしている・・・夜更かししてるん
かあ～

立って来た
いや、いや・・・発達障害かもしれない。

えんりくとはじり、アツモい、動がなくなつてしまつた
登園しぶりか・・・それとも・・・

「風邪」といって、不眠、食欲不振、母は「月
その意味が正しいか否かの判断が難しい。母は「月
親の養育問題もありそうだぞ・・・

とりあえず専門機関につなごう・・・

なんちゃって支援プラン

- とりあえず、専門機関の人にお願いしよう。
- 園で、どのように対応するのか助言をもらおう。
- 保護者にもう少し家でも頑張ってもらおう。少し子どもにも無関心みたいだし・・・気になることある時はすぐ連絡とろう。

この中には「何一つ、自分たちの専門性を活かすプラン」がありません。

そもそも、誰も救われない

- とりあえず、専門機関のアドバイスに従って対応してみたが、うまくいかない。
- やはり、私たちは専門家ではない・・・専門家にもう一度来てもらって、みてもらいましょう。
- 母親へも協力を求めたが、もともと熱心な親でないし・・・困ったもんだ。

関係機関には、それぞれの役割に応じた、様々な情報が眠っている。

また関係機関には、その専門性故にすべきことが他にある。保育の専門性までは担えない。

包括的に支援を見渡してみれば

- 医療機関で
てんかん発作の管理がされている。
- 聴覚言語療法士(現:言語聴覚士)に
構音の未熟により、病院のクリニックで言語療法を受けている。
- 行政からは
経済的に支援を受けている。
- 保健師により
母親は、育児への疲労もあり自律神経失調症のため定期的に支援を受けていた。

それでは生態学的アセスメントをしてみ ましょう(森をみてみよう)・・・

- ・てんかん発作を持っており投薬管理が必要。最近、成長に伴い投薬量が変わった。投薬量を合わせているので、多少副作用が出やすい状況(少しボーッとしやすい)。
- ・構音の未熟により、実は病院のクリニックで言語療法を週一回受けている。ようやく言語療法士との間で、普通に話せるようになった。
- ・母親は、母子家庭で、生活も不安定。育児への疲労もありときどき保健師がじっくり話しを聞いていた。また自律神経失調症のため定期的に受診中・・・

再度、支援プランを考える

- てんかんの薬の副作用で注意が散漫になりやすい
 - 投薬時間のコントロール・今後の見通しの把握
- 構音の未熟により、表出言語が不明瞭
 - 質問は一斉場面を避け、個別にする。
- 家庭生活が不安定なため、家庭では十分な支援が得られない。
 - 家庭への一方的な要請はしない。家族全体を支援できる体制を作る。

アセスメントの方略次第で、まったく異なる支援ニーズになってしまいました。森を見ることの必要性がよくわかったと思います。

ちょっと違う角度から・・・

その頃、病院では・・・

医師「薬を変えてから発作の方はどうですか？
何か、生活で不都合なことはありませんか？」

母親「特にありません。先生、なんか最近やたら
と泣くことが多いんですけど・・・。」

医師「う～ん、特に副作用ではないと思います
ね」

母親「そうですか・・・」

家族もネットワークの中に参加させておかない
と、こんな問題が起こってしまいます。

木を森にするために・・・

- 医療による支援情報
- 外部の機関による支援情報
- 福祉資源の活用に関する情報
- 母子保健にもとづく支援情報
- 当該機関の支援情報

個別の短期・長期支援目標

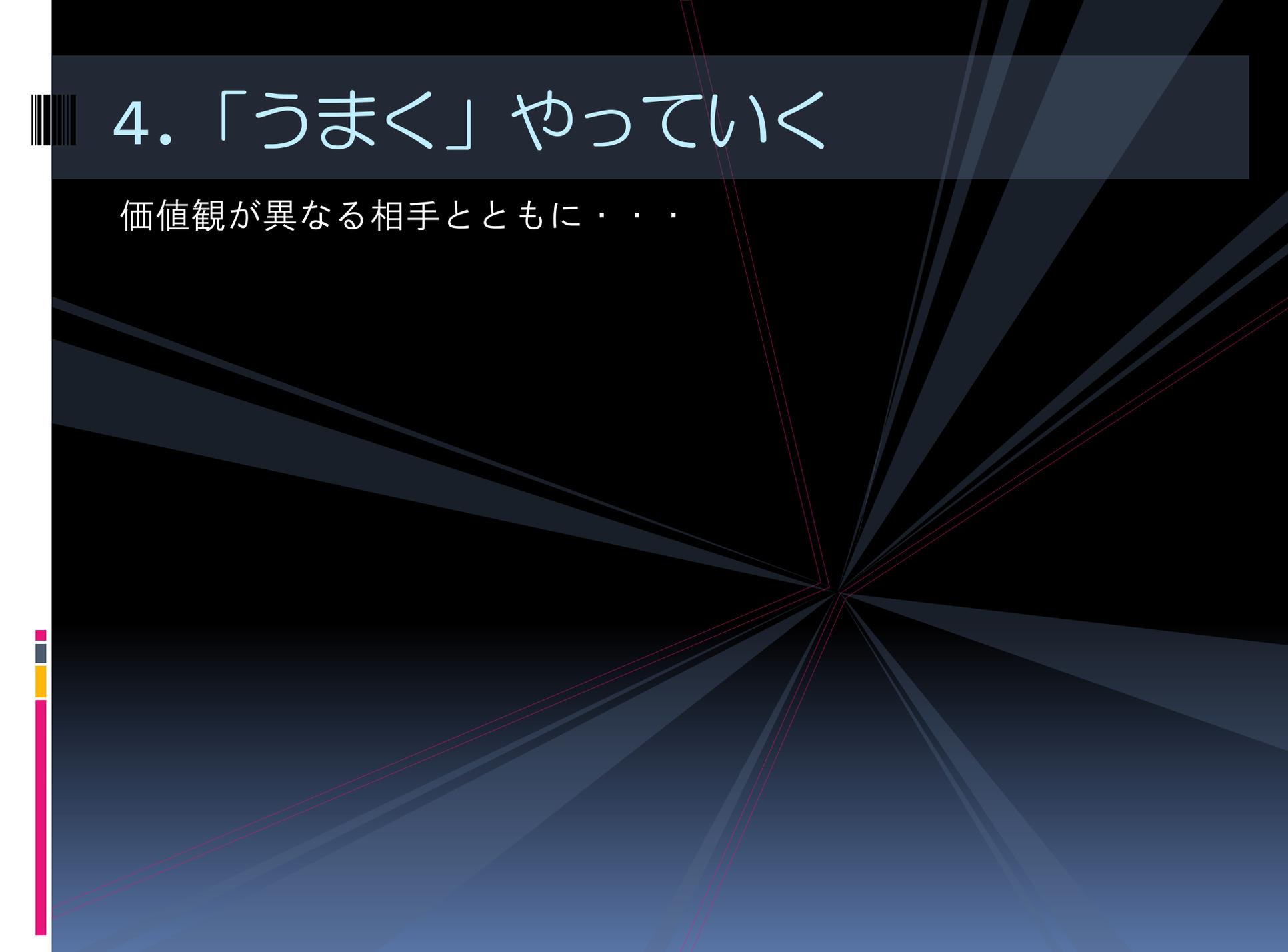
個別の支援計画

個別の指導計画



4. 「うまく」 やっていく

価値観が異なる相手とともに . . .



相手変われば・・・

保健センターでは

- 「なんで学校って、あんなに融通が利かないのかしら・・・ほんとにモウう～」

学校では

- 「そんなこと、学校では無理に決まってるじゃん・・・保健センターだからできんだよお～」

どうやら、お互いまったく価値観が異なるようですね・・・これではうまくやっていけません。恋人なら、いずれお別れするでしょう。

そんでもって、夫婦も・・・?!

今の親って・・・

アリカワ「あのお母さん、なかなか受け入れ悪くって、なんでわかってくれないんですかね・・・」

ある人「アリカワさんの常識は、あのお母さんにとっては非常識なんですよ・・・」

自分の価値観が絶対的だなんて思ってはいけない

価値観とは

何が大事で何が大事でないかという判断や、優先順位、重み付けの体系のこと。



演習

異なる「価値観」を変える・・・？

最終価値 (Rokeach, 1973)

(人生において達成したい目標)

- 快適な人生(豊かな人生)
- 達成感(永続的な貢献)
- 平和な世界(戦争や紛争がない世界)
- 美の世界(自然美や芸術美)
- 平等(あらゆる人間にとっての機会平等)
- 家族の安全(愛する人を守る)
- 自由(独立、選択の自由)
- 幸福(満足)
- 心の調和(心の葛藤がない)
- 喜び(楽しくのんびりした人生)
- 心の救い(救済・永遠の人生)
- 社会的認知(尊敬、称賛)
- 真の友情(親しい間柄)

演習1

- 初めて会った人に、自分の価値観を受け入れてもらう。

さあ、説得しよう！！

演習2

1) 価値の融和を試みる

相手の「一番の最終価値」について、理由を尋ね、話しを詳しく聞き、さらにはその話題について広げてみよう。

2) 相手が、自分の「一番の最終価値」について尋ねてきたら、それを伝えてみよう。

個人の価値観は・・・

- 人はそれぞれ異なる価値観を持っている。
- 価値観の違いを理解することは、相手の行動や自分の行動を説明したり、予測する上で役立つ。

相手の価値観を変えようとする
試みは、対立関係を生み出す!だけ!
対立関係ではなく、融和関係に
してみると・・・

協働関係を作るために (ここまでのまとめとしてチェックしてみよう)

- 職種や立場が異なれば価値観も厳密には異なっていると思ってください。そして、その価値観はなんなか変えられません。
- 「じょうず」に協働し、相手に協力を仰ぐのであれば、そこにはやり方があるのです。それは相手の価値観を認め、尊重することです。
- あなたが「それ」をすることで、相手も「それ」をしてくるでしょう。
- 融和しなければ、協働はまず無理です。



関係作りのために、まずやること

5. 保護者との関係作りの はじめの一步



情報は誰のもの・・・

- 連携により得た情報でも、いざ使う段階で勝手に使えないことが多々あります！！
- 「使える情報」にするためには、どうしても保護者を巻き込まなければなりません・・・

今日は・・・
何の話がある
のかし
ら・・・



保護者は・・・私が
この情報を知ってい
るとは知らな
い・・・
となると、このこと
を話し合えな
い・・・

2つの段階が必要です

- 1) 「この人が言うのなら」という人間関係を日頃から構築しておかなければ、何も始まりません。そのためには・・・
- 2) 子どもの成長・発達を促すための園と家庭との協働のためには、保護者も等しく子どもの客観的状态（支援ニーズ）に知っている必要があります。

つまり、「情報を知る」から「情報を使う」手続きが必要となります。
では、どうしましょうか???

それではちょっとここで・・・（演習）

問い

「あなたには、好きな人がいます。その人とつきあいたいと思っています。

さて、あなたの思いを告白するまでの道のりを整理してみましよう」

A：告白したい人

B：「告白したい人」の幼なじみ

保護者との関係作りは・・・

振られるリスクを低減しながらあなたの思いを受け入れてもらうことに、実は「保護者とうまくやっていく」ための極意がありそうですね!!

保育者に“振られない”戦略

1. 情報収集(親の障害観・家族/親族実態・家庭での子どもの様子)
2. 保護者の要望の把握(情報提供と説明責任)
3. 情報分析(今提供すべき支援は何か)
4. 情報共有化(個人情報保護の問題も含め)と支援戦略の一致(勝手に支援しても機能的な支援にはならない)

情報共有がないと、何か問題あるの？

A先生「お母さん、自分の身の回りのことは一通り出来るようになってきているから、失敗してもいいので自分でさせましょ」

保護者「そうですか、わかりました。私もつい忙しくて待てないんですよ。やっぱりなんでもしてしまふのはいけないですよ
ね・・・」

情報共有がないと、何か問題あるの？

ところが……

保護者「この前、B先生が、お母さん忙しいし大変でしょう。そんな無理しないでいいわよって……」

この一言でA先生への信頼は大きく揺らぎました。B先生が引き起こした“信頼の崩壊”は、A先生の取り組みを共有していなかったことから生じました。

まとめ

関係を「つくる」も「こわす」も

- 良い関係を「つくる」も「こわす」も、あなた次第である。
- 教師、保育士と言えども関係性の構築をはからなければならない。
- それが出来ていない中で、保護者と難しい話、聞き入れがたい話が出ることは100%ない。
- 破局からやり直すことは、ことのほか難しい。であれば、我々は保護者に振られてはならないのである。



事例集

3つの相談パターンから



「なに」を求められている?

- 保護者は「なに」を求めていると思いますか?
- 「相談」は、1)解決を求める相談(情報要求型)と、2)必ずしも解決を求めている相談(報告型)があります。そして、3)理由もわからずに紹介され相談に来る(無責任紹介型)場合もあります。
- まずは、どちらの「相談」なのか、把握する必要があります。

ケース1

「実は、子どもの事で相談があるんです。うちの子ども、家では本当に言うことを聞かないんです。思い通りにならないと、すごく大きな声で泣き騒ぎます。もう、こうなると手が付けられなくなります。夫も、また同居している家族も、この子が手が付けられなくなると『いい加減にしなさい』と怒鳴りつけます。こんなことがいつまで続くのかと思うと、絶望的です。

義母は「最近、こんな大変な子はうちの家系にはいない。なんでこんなになってんのかね」と私の前で露骨に言うようになりました。とても腹が立ちました。私の家系にだって、この子のように育てにくい子なんていませんよ。まるで私が悪いみたいに・・・夫も、義母にはあまり逆らわないから、私、もうこの人とはやっていけないなって思う。なんか、他人事って言うか、自分は関係ないと思っているんでしょうかね。

この前も、来年から幼稚園どうしようかって話をしようと思ったんだけど「〇〇先生(相談員)に相談すれば」って。私は夫がこの子の事をどう考えているのか、真面目に考えているのかって、そういうことが知りたいんだけど、全然だめです。もうあきらめに近いっていうか・・・もう本当にイライラしますね。夫と話していると。

祖父は、それでもこの子のことは大事に思ってくれているみたいで、この子が機嫌がよい時は、見ていてくれます。でも、どうしてもこの子、すぐ騒ぎ出しちゃうから、結局は私がみなきゃならないんです・・・。

もう少し、この子がね・・・やりやすいといいんですけど・・・それと」

さて、このケース、あなたならどのように話を進めますか？

話を「聴いてほしい」

- 「報告型」の相談を求めている人がいます。
- 話を「聴いて」欲しくて、相談に来ています。自分の事を一通り話すと、すっきりして「また、頑張れそう」と言って帰っていきます。
- この様な相談に、あまり助言を挟みすぎると「話をあまり聞いてもらえなかった」と言われたり・・・。ただし、保護者があなたに意見を求めてきたら、誠実に答えること。

この様なタイプの保護者との関係づくりでは、「聴く」ことが求められています。

「いつまで聞けば・・・」

- 「先生、質問です。そのような場合、いつまでも保護者の話を聞き続けられればよいのですか・・・私も、ゆっくり聞けるときは聞くのですが、いつも、それが出来るわけではないし」

相談の時間は予め「何時まで」と定めておくことをお勧めします。もちろん、緊急性が高い場合などはこの限りではありませんが、報告型の相談の場合、時間を定めることで、話し手の方が気遣ってくれることの方が多いです。

ケース2

最近、思うようにならないと床に頭を打ち付けることがひどくて・・・頭に、衝撃があると子どもの発達には良くないのですよね。

また、なんかうれしいことがあると、とても甲高い声でキーキー言います。外へでかけるとうれしいから興奮するらしく、すごい声出します。でも、それされると、やっぱりみんな「なんだろう」ってみるので、外にも出にくくなるし。でも、ずっと家においておくのもかわいそうかなって、時々外に出かけるようにしているんですけど・・・。

それと、白米しか食べません。他のものも食べてほしいから、ごはんにとそれとなく細かく刻んだ野菜を入れたりしても、すぐに気付いてしまいます。なんか、この子発達が他の子と違うって言うか・・・よその子見ても、あまりそういうことあるって聞かないんです。これ、なんですかね。本とか見ても、なんか詳しく書いていない。ネットとかみると・・・いっぱい、書いてあるけれど、けっこう怖いこと書いてあったりして。

夫の母親は「この子も小さい時はそうだったよ」って言うんです。私もそんなものなのかなって思っていたんですけど、やっぱりなんかあるんですかね。うちの子・・・。

さて、このケース、あなたならどのように話を進めますか？

情報が欲しい

- 「情報要求型」の相談があります。
- 具体的な対応や、進路、障害等についての情報を求めています。
- この様な相談に、焦点がぼけた対応(「気にしすぎよ」「もうちょっと、様子みましょう」など)をすると、後々、あまりよいことになりません。
- 求めている時ほど、伝える時です。

この様なタイプの保護者との関係づくりでは、正確な情報、役立つ情報の提供が求められています。

ケース3

子どもへの関わり方がよくわからないので、とりあえずここへ来ました。とにかく、このままだと座れないし、人の話も聞けないし、集団生活なんてとても難しいと思います。来年は、小学校だし・・・

病院の先生も、ここへ行けば障害が治るって言ってましたし。

とりあえず、ここを紹介されたんです・・・

さて、このケース、あなたならどのように話を進めますか？

無責任な紹介はしてはいけない

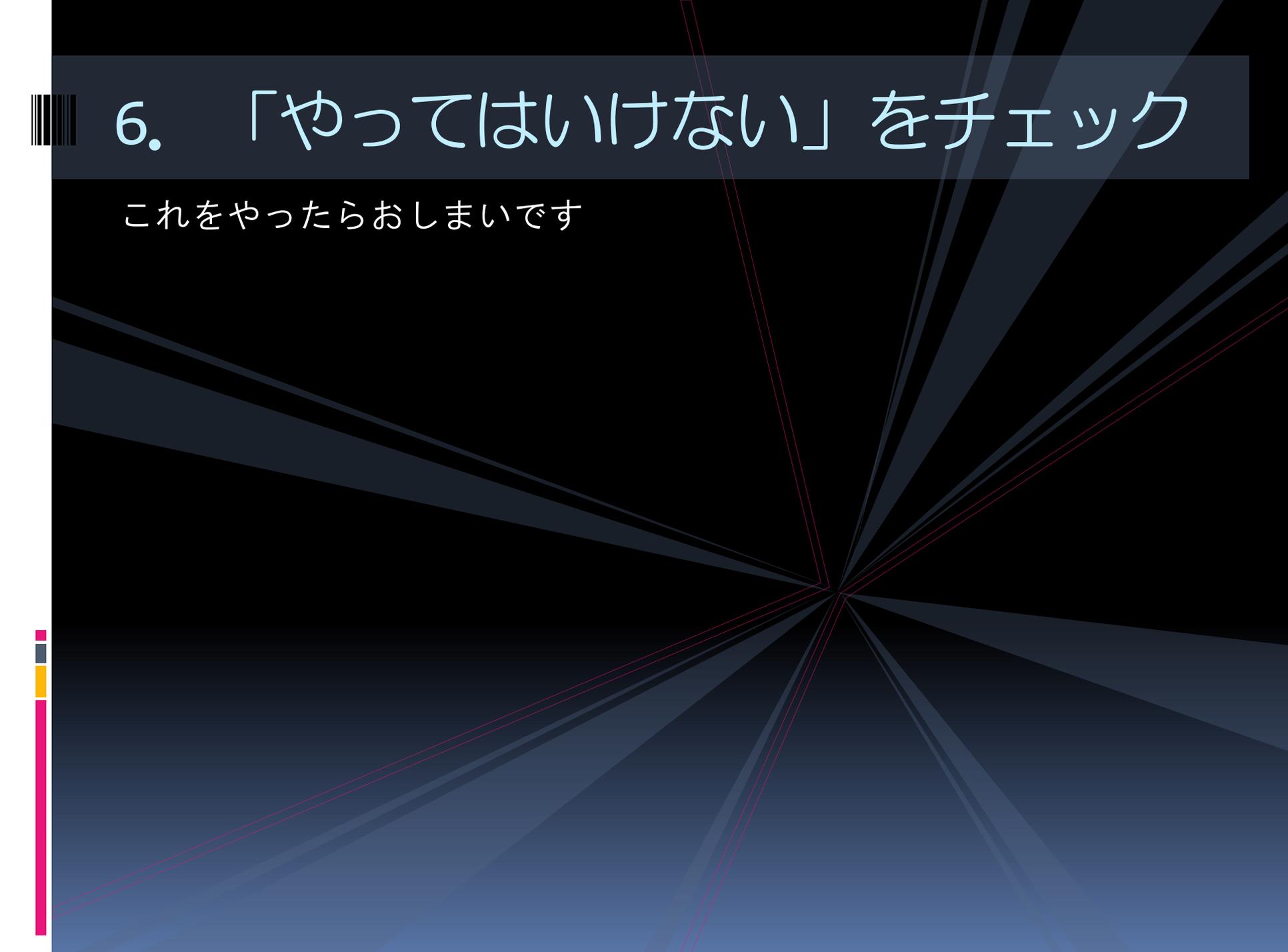
- 学校、幼稚園、保育園だけでは十分なサポートが出来ないことはある。しかし、それを無責任に他機関に丸投げ紹介することだけはしてはいけない。
- 別の専門機関を紹介する時は、まず丁寧に以下のことを説明する必要がある。「とりあえず」「なんとなく」という曖昧な紹介はその後の混乱を招きます。

- 1) 今、どのような状態にあるか。
- 2) そのために必要な事は何なのか。
- 3) それらを解決するにはどうすべきか。
- 4) その解決のための詳細な情報提供を行う(ここで初めて紹介が可能となります)。



6. 「やってはいけない」をチェック

これをやったらおしまいです



1. 保育園・幼稚園から家庭へのやりとりは、困った行動を中心としたものになっていないか？

- 「困った行動」が生じた途端に、急に「保護者」と連携をとろうとする傾向があります。保護者もその話題ばかりなので、子どもが正當に評価されているのか学校に不審感を持ちます。
- 保護者の中には、再三にわたる問題行動に対する担任とのやりとりを、苦痛に思っていることが多い。

困った行動を中心としない関係づくりを目指す！

2. “親の問題” に常に帰着していかないか？

- あなたにとって「うまくいかない」ことは、保育・教育の問題とは考えず、保護者や家庭等に問題があるといった“自分の外に原因”があると考えがち。
- こうした姿勢は、相手にも伝わるものです。問題を考える始点は、まず「自分自身」から始めてください。

客観的に問題の所在を明らかにする習慣を身につけてください。特にキャリアのある人ほど気をつけて！！

3. 文化的な差異(子育て環境の変化など)を認めず、親に杓子定規な価値観を押しつけていないか？

- 文化的な違いは、否定するのではなく、その世代の文化を学び取る一つの情報として尊重し、客観的に評価し、保護者への対応に活かす一つの情報とすべきである。
- その上で、必要な助言等を行う。

文化的差異は価値観の差異でもある。わざわざ摩擦を生むような関係に陥らないように

4. 異なる希望を保護者がもっていた場合、それを認めているか？

- 支援者・教育者の立場で子どもへの希望を持つことは必要。しかし、保護者も同様に子どもへの希望を持っている。
- 支援者・教育者の希望だけを主張し、保護者の価値観を認めないというのは傲慢です。これでは「協働」は出来ません。

希望はお互いに尊重し、可能な限り認め合い、歩み寄る

5. 支援する関係者が縦割りでバラバラになっていないか？

- 子どもの事を、何度も説明しなければならぬことを保護者は嫌います（先生たちの中で、引き継ぎがなされていないのではと不安になります）。
- 保護者も担任が変わるときには不安は大きくなります。基本的には継続した支援をしてもらいたいと願っています。いかに上手に引き継ぐか・・・

まず支援者間の連携が欠如しては、とても保護者との連携など出来ません

6. 子どもの「支援計画」「指導計画」等の策定に親が参加しているか？

- 学校や療育施設・幼稚園・保育所等で一方的に決められ、そのような計画書がいつ作られ、何が決められているか、知らない保護者もいる。
- 保護者と協働できているかというのは、支援計画や支援目標が協働で策定されているかがバロメーターとなる。
- 保護者が加われない事由があれば、それはその時点で別の支援の枠組みです。

保護者が積極的に参加できている事、それが良好な関係が築けている指標なのです



9. おわりに



有川研究室

E-Mail : arikawa@ed.niigata-u.ac.jp

Twitter: <https://twitter.com/aripiyon>

Facebook : <https://www.facebook.com/arikawa.hiroyuki>

HP: <http://arichannel.jp/>

本日使用したパウポのPDFを、1週間
だけホームページの「研修資料」

<http://arichannel.jp/research-program/lecture-meeting/>

にアップしておきます。ダウン
ロードは自由です。



研究室公認ゆるキャラ「あり
犬」